



## 抗菌剤の慎重使用をお願いします！

抗菌剤は、家畜の健康を守り、安全な畜産物を安定的に生産するための重要な資材です。しかし、抗菌剤を家畜の治療にむやみに使用してしまうと、薬剤耐性菌が発現することがあり、抗菌剤が効かなくなることがあります。また、薬剤耐性菌が人に感染した場合、人の医療で使用する抗菌剤も十分に効かなくなる恐れがあります(※フルオロキノロン、第3世代セファロスポリン、マクロライド系薬剤などは、耐性菌の出現防止が重要とされています)。そのため、生産者、獣医師、動物用医薬品販売業者や家畜保健衛生所など関係者が連携して抗菌剤の慎重使用に取り組むことが必要です。今回は薬剤耐性対策の4つのポイントをご紹介します。

### ①感染症を予防する

飼養環境(畜舎等の洗浄・消毒、十分な飼養スペースの確保、適切な栄養管理等)を整え、家畜のストレスを減らし、ワクチンの活用などにより感染症の発生を予防しましょう。

### ②家畜の状態を的確に把握する

家畜の異変に素早く気付けるよう、毎日、飼育する家畜の健康観察を行いましょう。

### ③獣医師に正確な情報を伝える

獣医師が的確に診断できるよう、発病後の経過、措置の状況、過去の感染症の発生状況等の情報を獣医師に伝えましょう。

### ④抗菌剤を正しく使用する

抗菌剤は獣医師からの指示に基づき、用法・容量、使用禁止期間等を守って正しく使用しましょう。

※フルオロキノロン等の第二次選択薬を最初の治療から使用するの避けましょう。第二次選択薬として承認されている抗菌剤の成分や製剤は動物医薬品検査所HPに掲載されています。【URL:[https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai\\_p4.html](https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p4.html)】



【出典】農林水産省 消費・安全局 畜水産安全管理課HP

## 熊本型放牧畜産事業スタート！

狩尾・跡ヶ瀬牧野で入牧が始まりました。本事業は、平成8年から取り組み、生産コストや管理労力削減のみならず、牛の足腰の強化、過肥予防、青草給与による繁殖成績向上、阿蘇地域の草地保全や景観の維持にも寄与しています。家畜保健衛生所職員もピロプラスマの衛生検査等を通して、牛たちがより良い放牧生活を過ごせるようサポートしていきます！

## 熊本県高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ防疫対策マニュアルに基づく防疫研修会が開催されました！

熊本県では、人事異動直後に鳥インフルエンザが発生した場合に迅速かつ的確に防疫措置を講じることができるよう、県マニュアルに基づき、毎年度当初に農林水産関係職員を対象とした防疫研修会を開催しています。



今年は4月13日に開催され、防疫対応の概要等の例年の内容に加え、鳥インフルエンザ発生連絡を受けてから農場で作業を行うまでの一連の流れ（支援センターに移動するまで、支援センターから現場事務所に移動するまで、現場事務所から農場に移動するまで）等の応援職員の役割についても研修を行いました。4月に入っても国内ではHPAIの発生が認められていますので、引き続き緊張感をもって業務に取り組んでまいります。



## アカバネ病とイバラキ病の予防接種シーズン突入！

毎年、吸血昆虫が媒介し、牛に異常産を起こすアカバネ病などのアルボウイルス感染症サーベイランスが全国的に実施されていますが、22年度は**本県でアカバネ病やディアギュラウイルスの抗体陽転が確認されました**。アルボウイルス感染症の発生予防には、地域ぐるみで計画的にワクチン接種を行い、地域全体の家畜の抗体保有率(免疫力)を上げることが重要です。吸血昆虫の活動が活発になる前の**4~6月に毎年繁殖牛へのワクチン接種**をお願いします！

## 近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地(国)	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	韓国	肉用アヒル	令和5年4月2日
			肉用アヒル	令和5年4月10日
		台湾	肉用アヒル(2件)	令和5年4月14日
			家さん(14件)	令和5年3月~4月
アフリカ豚熱		韓国	豚	令和5年3月31日
			豚	令和5年4月14日
			野生いのしし(56件)	令和5年4月

令和5年(2023年)5月1日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

